

# 本川小児童、米牧師に贈る 被爆2年後の復興広島 絵や書48点 現地で初公開

被爆二年後の一九四七年に広島の子供が描き、米国・ワシントンのオールソウルズ教会の牧師に贈った絵などが、現地で初公開されている。この機会を通じた日米の草根交流を映画化している舞踊家の重藤静美さん(56)から七日、中国新聞社に写真が届いた。

本川小(広島市中区)の当時の児童が、復興途上の街を描いた絵や書など四十八作品。被爆地の物資不足を知った米国人牧師が四六年、同小に贈った絵の具やクレヨンの返礼だった。

両親が広島出身で、

米国在住の重藤さんは三年前、教会に眠る児童の作品に出合い心を打たれた。教会と協力して絵の傷みの修復を進め「大変な時代に生まれた日米市民の心の交流を若い世代に見てもらいたい」と映画制作に乗り出し

た。

今回、修復が終わったのを機に保管する同教会が、実物や複写の展示を企画。六日(現地五日)の開会セレモニーには約六百人が出席した。児童の作品は六月まで教会で展示後、米国の他の教会や学校を巡回する。日本での展示の計画もある。(森田裕美)



62年前の本川小児童の絵画を展示したワシントンの教会 (重藤さん提供)